

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年 7月 13日

三田市議会議長 松岡 信生 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	厚地弘行・北本節代・佐貫尚子・中田哲		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	岡山県浅口市無料バスふれあい号について		
日 時	令和5年7月6日(木) 14時00分～15時40分		
視察先対応者	井澤誠議長・石田康雄企画財政部長 富田正樹課長 仁科道也地域創造主観		

調査概要別表

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

視察先：岡山県浅口市

視察目的：無料バスについて

視察概要：浅口市役所において

井澤誠議長、石田康雄企画財政部長、富田正樹課長  
仁科道也地域創造主幹より説明を受けた

### 【事業の背景】

市内の井笠鉄道(株)が経営破綻し、平成24年にバス路線が廃止されたことによる。平成22年から既に市民アンケートを行い、公共交通の課題整理をはじめている。23年2月市営バス無償の試行運行を行うために業者選定し、4月から開始する。

### 【事業の内容】

アンケート結果に基づき高齢者の買い物と病院への交通手段の確保として、交通空白地域を最小限にし、地域をきめ細かく回る市営バス6路線を実施することとなった。している。バスはハイエース12人乗りを6台市が購入。保険、ガソリン代等は市が負担し、運転などの運行を2社に業務委託する。乗降者がいない停留所は通貨するワンマンバス方式。

現在は週3回の運行であるが、当初は各路線を週2回で始めている。一日あたり4便から7便。バス停を表示する工作物はなく、床にペインティングしている。

乗車の多い路線にはその区間のみ2台の連車で運行。

年間運行経費は2,054万円（うち業務委託費1,050万円）

年間のべ利用者数30,990人、一便あたりの乗車数6.1人、乗車率39.7%

コロナ禍中は利用者が減っていたが、今年くらいから盛り返している。

運行の法的位置づけは、道路運送法によるものとせず白ナンバーでの運行である。

### 【質問に対して】

道路運送法の有償運送にすれば様々な規制があり複雑になる。一方、道路運送法外であっても法律に触らないように調査の必要はあるし、法律の改正には気を使っていかなければならないと説明があった。

### 【今後の課題】

床のバス停留場所のペインティングに色落ちが早いこと、便数を増やしてほしい、運行の曜日が限られる、家の前にもバス停留してほしいなどの市民ニーズがある。高齢者の増加に伴う福祉施策としての対応も検討が必要と考えている。また技術の発展による無人バスの開発も進んでおり、その進捗も見ていきたいと説明があった。また、主に高齢者が乗車するため、他の世代の人からは利用者が無料で行うのは問題があるのではないかとの意見もあるが、若い世代もいずれ高齢になると言うことの説明で今は納得していただいている。

### 【資料別途添付】

視察先 岡山県浅口市 視察目的 無料バス・ふれあいバスについて

## 所見

市内を走る井笠鉄道（株）が経営破綻し、平成24年度にバス路線が廃止となる。公共交通の課題があったため、破綻前の平成22年度から既に市民アンケートを行っており、いかに公共交通に課題が多いことを感じるが、こうした公共交通は全国各地でも課題となっている。三田市においても、公共交通については空白地域もあり、市は地域交通にも力をいれているところではあるが、今後は更に高齢者の外出時の移動手段は喫緊の課題である。この度の無料ふれあいバスは地域をくまなく回る6路線で、バスは12人乗りのハイエース台数は路線数の6台で市が購入し保険代、ガソリン代は市が負担し、運転業務は2社に業務委託をしている。運航回数については一日4便～7便で通常のバス停とする看板は作らず路上にペイントされたものとなっている。このペイントも数年で劣化してしまうため高齢者から、見えない、家の前にペイントしてもらいたい等の要望も在るとのこと。このペイントされた所まで行くのが大変ではないのか？と質問もしたところ自身で乗り降りできる方が対象となっており、高齢者だけでなく、通勤や通学の市民も利用しているとのことであったが、停留所までが遠い、三田市の場合はその解決がなかなか難しく思う。三田市のような地形であれば更にきめ細やかにバスが巡回しなければ解決に至らず、そうなれば予算も膨らんでしまうのが現実であり、ふれあいバスの年間運航経費については2054万円（うち委託費1050万）となっており、この費用なら三田市でもできるような思いにもなるが、地形により三田市が車を購入する場合、何台購入すれば空白地域がなくなるのか、こうした試算もすべきと考える。また三田市は地域の協力により地域交通を進めているが、運行の上の法的な位置づけについても、ふれあいバスは道路運送法によるもので白ナンバーの位置づけとのことであり、三田市が導入するにあたっては法的な位置づけについても調査、研究が必要であると考えている。公共交通については高齢化社会に進む中、とても重要な課題であると考えている。ふれあいバスについては、市民の利便性を追求するため、数年おきに利用者等にアンケートを取るなど、ニーズ把握を知る努力もされており、常に市民目線で取り組まれている所は行政サービスの充実と感じた。三田市は自動運転の試行を行っている。こうした試行が将来三田市民に利便性を与えられるように取り組んで頂きたいと思う。とても参考になる会派視察であった。

文責 佐貫尚子

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年 7月 13日

三田市議会議長 松岡 信生 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	厚地弘行・北本節代・佐貫尚子・中田哲		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	広島県福山市 イエナプラン教育について		
日 時	令和5年7月7日(金) 10時10分～11時40分		
視察先対応者	常石ともに学園校長 甲斐和子 常石ともに学園教頭 坂口憲治		

【調査結果概要】

■基本理念 21世紀型『スキル&倫理観』を教育活動の中ではぐくみ、『行動化』ができる確かな学びを進める。

■福山 100年教育が描く未来

→変化の激しい社会の中で、夢とローズマインド(思いやりの心・優しさ・助け合いの心)を携え福山で、日本で、世界でたくましく生き抜く。そして、環境・貧困・人権・平和・開発等、社会の様々な課題を自らの課題ととらえ、課題解決に向け周りの人々と協働して持続可能な社会を創造する。

■目指す子供の3つの姿

- ①自立⇒学ぶ面白さを実感し自ら学ぶ子
- ②共生⇒持ち味を活かしあい協働する子
- ③自己実現⇒自己を認識し、自分らしく成長する子

【スキル&倫理観】責任感を持つ・進んで取り組む・計画する・協働する・生み出す・プレゼンする・リフレクションする。

■学びの場での原則

- 教育活動は対話、遊び、学習、催しの4つの基本的な活動を交互にリズムカルに行う。
- 子供たちが互いに学びあい、助け合いができるように、年齢や発達状況の違う多様な子供たちを組み合わせたグループを創る。
- 一人でできる遊びや学習とグループリーダーが指示・指導する学習を交互に行なう。
- 学習の基本である、経験・発見・探求とワールドオリエンテーションが中心的な位置を占

める。

○子供の行動や成績の評価は成長の過程を見るという観点を大切にし、子供自身との話し合いをする形で進める。

○何かを変え、より良いものにする活動が大切。実際に行動し、よく考え、繰り返すことを実践する。

○教室は居心地がよく先生と子供たちがサークル対話、共同作業ができる環境を整える。

#### ■異年齢集団でのグループ編成

○1から3年生、4から6年生の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行う。

⇒年長者が年少者を助けたり、教えたりすることが日常的に行われる。

⇒個性や発達程度の違いが当たり前のように受け入れられるようになる。

⇒教科学習では学年を超えた学びの展開が可能となる。

#### 4つの基本活動

① 対話⇒対話を重視し、個人を尊重し信頼関係を育てる。

② 遊び⇒『遊び』そのものが『学び』であり、考える力や協働する力を育てる。

様々なシーンで子供が選択して『遊び』の時間・環境を創る。

③ 仕事⇒(ブロックアワー)⇒子供たちが学習計画を立て学び続ける力を養う。子供の状況に合わせた学習を進める。自立学習やインストラクション、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを組み合わせる。

(ワールドオリエンテーション)⇒生きた本物の題材から問いを見出し探求し続ける力を養う。教科の内容と関連した目の前の生きた問と向き合い異年齢集団による協働探求を進める。

④ 催し⇒子供たちが喜びや失敗の悔しさを分かち合いあう。運動会や学習発表会などの行事だけでなく、その週の学びをプレゼンや演劇にして発表し、他の学年や保護者、地域の方々と共有する。

#### 【所見】

学校近くには造船所があり、その反対側には山や子ども達が育てる野菜の畑等があった。

学校はそれほど大きい校舎でもなかったがリニューアルされた校舎の天井を見ると電気配線が丸出しになっており、工事をされた方が子ども達にこの配線を見て色んなことを考え、学んで欲しいとのことであった。学園だけでなく、地域の方々がこの学園の目的を認識し地域が関わり子どもを育てていると感じた。、学ぶ面白さや、研究し学ぶこと等、福山100年教育が目指すところでもあると思う。教室では異学年が学び、年長者が年少者に教える事が日常的に行われている。また発達の違いについても自然と受け入れるようになっており、個々の

学びを尊重している。学園では通知表がないとのこと、数字で評価するより、何を子ども達が学んだのか、それを評価として保護者に伝えているが、この方針には私自身不安があり、この先の進路が上手く希望校へと進めるのか、しかしこうした不安はこの学園には別段大きな問題ではなく、それこそがこの学園の良さなのかもしれない。また学園の行事について運動会や学習発表会の行事以外に学園の学習基本である経験、発見、探求とするワールドオリエンテーションの中で研究発表時のプレゼンや、それを演劇で表現するなど、舞台上立つ低学年さえ自信を持って声を出し説明ができる事に素晴らしいと感じた。最近では、自分を表現することが苦手な子が増えているが、興味ある事を研究しそれを発表する事等がその子自身の自信となって成長をしていくのだろうと思うし。三田市においても特認校があるが、特徴をもって学習する学校として進めるのも良いのではと思う。常石ともに学園の視察を通して福山の教育が地

域の大人を巻き込みながら、子ども達の生きていく力をつけていく教育であると思えたし出来ればこうした教育が普通に広がりを見せて欲しいと思う。常石の子どものように子どもが子どもらしく生きる事が、日本の将来が豊かになるのではと考える。

常石ともに学園の校長は別段特別な事はしていない。普通の学校ですとも話され、これが子ども達の普通の姿、無理をせず普通のままでいられる学校なのかもしれない。

ここを卒業し中学生になった子ども達はリーダー的な存在になっている子も多いと言われていた。自立させる。自信をつける。遊びの中において、協働で作り上げる喜びをする。

将来を見据えた教育が常石ともに学園では行われていた。

改めて教育のあり方が変化しつつあるように感じる視察であった。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。